

SHOW HEY シネマルーム

Data

監督：瀬々敬久
出演：窪岡晴希 / 長谷川朝晴 / 忍成修吾 / 村上淳 / 山崎ハコ / 菜葉菜 / 栗原堅一 / 江口のりこ / 大島葉子 / 吹越満 / 片岡礼子 / 嶋田久作 / 菅田俊 / 光石研 / 津田寛治 / 根岸季衣 / 渡辺真起子 / 長澤奈央 / 本多叶奈 / 栗原駿士 / 佐藤浩市 / 柄本明 / 人形舞台 yumehina / 百鬼どんどろ

ヘヴンズ ストーリー

2010年・日本映画
配給 / ムヴィオラ
278分

2010 (平成 22) 年 10 月 5 日鑑賞

東宝試写室

👁️👁️ みどころ

園子温監督の『愛のむきだし』(08年)の237分を超える278分の本作は、現代版『罪と罰』。第1章から第9章までの章立てによる怒濤の展開に、時間を忘れるはずだ。

昨今多発する、理由なき殺人による遺族の悲しみと憎しみは？頼るべきは法の裁き？それとも、自力による復讐？ラスコーリニコフによる老婆殺しは優秀な頭脳の行き着く先だったが、本作の主人公たちは一般市民。2つの殺人事件を軸とし、20人を超える登場人物が織りなす人間模様とは？

しかして、本作はなぜ『ヘヴンズ ストーリー』というタイトルに・・・？

9章からなる物語は、なぜこんなタイトルに？

『ヘヴンズ ストーリー』というタイトルの本作は、第1章から第9章までに章立てされて物語が展開する。第6章まではそのタイトルだけからストーリーを想像することはできないが、第7章『空にいちばん近い町1 復讐』と第8章『空にいちばん近い町2 復讐の復讐は何？』は、タイトルだけでテーマは明白。しかして、第9章の『ヘヴンズ ストーリー』とは？「ヘヴン」とは「天国」のことだが、なぜ最後に天国の物語が？

まあ、そんな表面的な議論をしてもあまり意味がないから、まずは根性を据えて4時間38分の大作に臨まなくっちゃ。園子温監督の『愛のむきだし』(08年)は、美男美女3人の主人公(西島隆弘、満島ひかり、安藤サクラ)を軸とした237分(3時間57分)の大作だった(『シネマルーム22』276頁参照)が、本作はそれより41分も長い。また、登場人物が多く舞台もあちこちと変わり、時間軸も動いていく。したがって、しっか

り観ていないと頭の中が混乱するかもしれないが、よほど鈍感な人でなければ途中居眠りすることはないはずだ。

冒頭に登場する人形舞台 y u m e h i n a や、中盤に登場する百鬼どんどうが暗示するものは一体ナニ？そんなことを考えながら観ていけば、第9章がなぜ「ヘヴンズ ストーリー」とタイトルされているのかが、よりはっきりするはずだ。

この大作は、現代版『罪と罰』？

ドストエフスキーの『罪と罰』は、「選ばれた非凡人は、新たな世の中の成長のためなら、社会道徳を踏み外す権利を持つ」という独自の世界観を持った青年・ラスコーリニコフによる、強欲な金貸しの老婆殺しを通じて、人間の「罪と罰」に迫った世界名作全集の代表的小説。それに対して、4時間38分という異例の長尺となった本作は、2つの殺人事件を軸として、それに絡む20人以上の登場人物がくり広げる憎しみと復讐の物語。もっとも、人間である以上、憎しみだけで生きていくことはできないから、そこには当然男女の愛の物語も……。

ドストエフスキーの『罪と罰』は頭の切れる1人の青年の頭脳から「あの事件」が起きたが、今やニッポン国内では意味不明の犯罪が多発している。その結果、あなたもいつ理由なき殺人事件の被害者、あるいはその遺族になるかもしれないという国に成り下がっている。そんな状況下本作が描く「罪と罰」は、一般市民が主人公。裁判にも市民参加が「定着」し、検察審査会でも一般市民（素人）の活躍が目立つ昨今、殺人事件に巻き込まれた一般市民たる主人公たちは、一体どんな「罪と罰」を背負っていくのだろうか？

両親と姉を殺された少女・サトは？

本作は2つの殺人事件の遺族を主人公として展開していく。第1は、やさしかった父親（吹越満）と母親（片岡礼子）そして姉が突然殺されてしまった、8歳の少女・サト（本多叶奈）。犯人は犯行直後に自殺してしまったから、サトは一体どこに悲しみと怒りをぶつければいいの？第2は、未成年者による理由なき殺人によって、愛する妻のみならず乳母車の中で泣いていた赤ん坊まで殺されてしまった男・トモキ（長谷川朝晴）だ。時期的には第1の殺人事件は2000年7月、第2の殺人事件は1999年7月と近似しているが、もちろん両者には何の関連性もないから、サトとトモキの接点などあるはずはない。

第1章『夏空とオシッコ』では、近所の主婦・美奈（渡辺真起子）から事件を知らされ、両親を失ったショックで「オシッコが一生出ないのでは？」と言うほど落ち込んでいくサトの姿が描かれる。ところが、テレビの画面上で「僕がこの手で犯人を殺してやります」と力強く語っているトモキの姿を見ると、一転してオシッコが出たらしい。「わたしね、お姉ちゃんの年齢もお母さんの年齢も、飛び越して生きるの」と力強く叫んだサトは、母方の祖父・ソウイチ（柄本明）の元に引き取られたが、さてこれから彼女はどんな女の子に

成長していくの？

復讐宣言をしたトモキの今は？

他方、「僕がこの手で犯人を殺してやります」と言い切り、サトが生きていく上でのヒーローになっていたトモキは、第1章から3年後を描く第3章『雨粒とRock』では、「鍵の救急車」で働いていた。その様子を見る限り、復讐に執念を燃やす鬼ではなく、その日その日を何となく過ごしているだけの、情けない今ドキの若者風・・・？

第3章のストーリーは、そんなトモキと、幼い頃父親から受けた暴行のため右耳が聞こえなくなったけれども、ロックギターをやっている22歳のタエ(菜葉菜)との奇妙な愛。他方、犯行当時19歳だったトモキの妻子殺しの犯人のミツオ(忍成修吾)には、事件から約1年後の2000年8月に無期懲役の判決が下され、確定していた。

あれ、トモキはそれで安心してしまい、あの力強い発言を忘れてしまったの？

2つの事件の接点は？裁きは司法に？それとも・・・？

サトとトモキとの接点が生まれるのは、第1章から8年後の夏を描く第4章『船とチャリとセミのぬけ殻』において。あれから8年、16歳になったサト(窪岡萌希)は今、とある島で妻・タエとかわいい娘の3人で幸せそうに暮らしているトモキの元を訪れようとしていた。その目的は一体ナニ？

「理由なき殺人事件の被害者」ということ以外何の共通項もない2人が、はじめて接した時に交わす会話は重い。中でも心にグサリと突き刺さるのは、「殺してやるんじゃないんですか」と詰め寄るサトに対し、「家族を殺された人間は幸せを願っちゃダメかな」と逆質問し、わずかながらに救いを求めようとしたトモキに対する、サトの「ダメだと思えます」というきっぱりとしたセリフ。無期懲役だったはずの憎っき殺人犯・ミツオは今、釈放されてシャバに出ているらしい。そんな現実と8年前のテレビでの宣言の履行をあらためて迫られたトモキは、これからどんな行動を？裁きは司法に？それとも・・・？

この若手女優に注目！

第4章でサトを演ずるのは、『地球でたったふたり』(07年)で私が大注目した窪岡萌希。その評論で私は「アイ役の窪岡萌希もいいが、私が注目するのはユイ役の妹の窪岡萌希。これは、すごい若手演技派女優として私が早くから注目していた宮崎あおいが2008年のNHK大河ドラマ『篤姫』への出演によって全国津々浦々に知れわたり、日本を代表する若手女優となってしまった今、私が推す次の注目女優はこの窪岡萌希。1992年生まれの彼女はまだ17歳。これからの成長と大ブレイクが楽しみだ」と書いた(09年1月5日記)(『シネマルーム22』268頁参照)。

それから1年半後の今、窪岡萌希はこんな立派な若手女優に急成長！第7、8、9章と

続く本作の核心部において、彼女が見せる存在感に注目したい。



© 2010 ヘヴンズ プロジェクト

2010年12月4日から第七芸術劇場、順次京都シネマ、神戸アートビレッジセンターにて公開

あの「熟女」も、すごい存在感！

他方、山崎ハコといえば独特の雰囲気でも一世を風靡した（フォーク）歌手。本作ではそんな彼女が女医（長澤奈央）から若年性アルツハイマーだと告知されてショックを受ける人形作家・恭子役を演じている。私はテレビのバラエティー番組はほとんど見ないが、本作ではサトにしてもこの恭子にしても、テレビから流れてくるニュースがその人生を決めることになっているから、あながちパカにはしていないかも・・・。

それはともかく、恭子がミツオと接点を持つと決めたのは、若年性アルツハイマーの告知を受けたショックの中である記者会見のシーンをテレビで見たため。それは、2000年8月に無期懲役の判決を受けたミツオの弁護士（嶋田久作）が控訴を断念したことを報告するものだが、そこで公表されたのがミツオのコメント。それは「これから生まれてくる人間にも僕のことを覚えていてほしい」というごく短いものだったが、自分が生きていることすら忘れてしまうという絶望感に打ちひしがれていた恭子は、以降そんなコメントを出したミツオとの接点を求めはじめることに。第5章『おち葉と人形』では、第1章から8年後までの、そんな恭子とミツオの物語が描かれるが、そこでは本格的演技は初体験という山崎ハコの圧倒的な存在感に注目！

ミツオの就職は？ 恭子との共同生活は？

他方、シャバに出たミツオは保護司の応援のもと、懸命に就職先を探していた。しかし、新卒でも容易に就職先が見つからないほど深刻なデフレと不景気に陥っている状況下のニッポン国では、ミツオのような「前科者」にまともな就職先が見つからないのは、ある意味当然。ミツオの就職を頼まれたシオヤ（光石研）は、私の予想どおりミツオの採用を二倍もなく断ったが、その時見せたミツオの対応は？ こんなミツオの態度を見てみると、前科者にまともな就職先が見つからないのは当然だと、私はヘンに納得してしまったが、悪いのは一体ダレ？

ところが今、ミツオは恭子の養子となって2人で仲良く暮らしていた。それはすべて恭子の「奇妙な申し出」のおかげだが、昨今恭子の病状は日々悪化。そして、今やミツオに対してすら、時々「あなた、一体誰？」と言い出す始末だ。そんな恭子とミツオの、今後の展開は？

もう1人の男・カイジマとは？ 彼の罪と罰は？

第1章から半年後の第2章『桜と雪だるま』では、雪深い東北の鉱山跡の廃墟で、カイジマ（村上淳）が波田（佐藤浩市）を追い詰め殺そうとする奇妙な物語が描かれる。公務員はアルバイトを禁止されているはずだが、警察官であるカイジマはそれに違反しているらしい。しかも、彼が副業としているのは「復讐代行」という物騒なものだから、かなりヤバイ。そして今、彼が波田を殺そうとしているのは、波田の妻からの依頼を受けたビジネスらしい。そのストーリー展開はあなた自身の目で観てもらいたい、そこで問題はなぜ彼がそんな副業をしているのかということ。カイジマが副業に励む姿はこの第2章の他、第6章でも動物園で働く男・黒田（津田寛治）を拳銃で威嚇しながら、執拗に追っていくというシークエンスで描かれるが、彼はなぜそんなヤバイ副業を？

副業をするのももちろん金が必要なためだろうが、5歳の息子・ハルキ（栗原駿士）と2人で暮らしているカイジマは、なぜ警察官の給料だけで生活できないの？ それは、かつて交番に入った強盗を正当防衛で殺害してしまったことに悩むカイジマが、以降ずっとその強盗の遺族に金銭援助を続けているためらしい。もちろん、それは法的に義務づけられたものではないが、それがカイジマにとっての罪と罰？ また、拳銃を使って復讐代行というヤバイ副業をしていけば危険がつきまとうのは当然。そんなカイジマに対して、ある時下される罰とは？

クリスマスプレゼントにみる、人間の営みとは？

第1章から8年後の冬である第6章『クリスマス プレゼント』では、カイジマが殺してしまった強盗の妻・チホ（根岸季衣）にお金を届ける姿が描かれる。今は病床にあるチ

ホに対して律儀にお金を届けに来るカイジマをチホの義娘・カナ（江口のりこ）はからかうが、そこではカイジマがカナに贈るあるクリスマスプレゼントが印象的だ。そして、第6章ではそのタイトルどおり、ミツオが恭子に贈るためにクリスマスプレゼントを買うシーン、サトがトモキに贈るために買ったクリスマスプレゼントを渡すシーン、そしていつも問題を起こす息子・ハルキに対して、カイジマがあるクリスマスプレゼント(?)を贈るシーンなどが描かれる。

第6章には、第4章で少し登場した瀬々敬久監督作品の常連(?)で『地球でたったふたり』でもいっ味を出していた菅田俊が鈴木役である働きを見せる。第4章で若い愛人を連れだした鈴木がトモキやタエの住むあの島にしげこんでいたのは、実は自分の会社が倒産した結果のヤケのヤンパチだったらしい。したがって、第6章に登場する鈴木は今、建築現場で慣れない力仕事に従事しながら先輩たちにゴマをすっていた。そんな鈴木が仕事帰りの駅で2人の先輩にクリスマスプレゼントしたのは、ビールとおつまみ。そして、鈴木が同じ建築現場で働いていたミツオにも飲めないビールを勧めたことから、ストーリーは思わぬ方向に進むのだが、このビールとおつまみだってれっきとしたクリスマスプレゼント?

子供の頃は誰もがサンタクロースがクリスマスプレゼントを運んでくると信じているが、いつしかそれはつくり話に過ぎないという現実を知ることになる。しかし、それって幸せなこと?それとも・・・?本作第6章に見るさまざまなクリスマスプレゼントは、贈る側、贈られる側それぞれの人生模様そのものだ。したがって、第6章ではクリスマスプレゼントに象徴される悲しい人間たちの営みをしっかり確認したい。

ミツオの尾行から得られたものは?

第6章では、サトの言葉に刺激され、自らの「罪と罰」を意識し始めたトモキが、建築現場で働くミツオの様子をうかがうストーリーが展開する。サトの登場を契機としてトモキがそんな行動をとり始めたことによって、それまで幸せだったトモキの家庭には今少しづつヒビが入っていた。にもかかわらず、クリスマスイブの日、ミツオは鈴木からたんまりビールを飲まされた挙げ句、風俗店に行ったり、酔いが覚めたその帰り道には恭子に贈るクリスマスプレゼントを買ったり……。こりゃ一体どういうこと?

ミツオを尾行していたトモキはたまたまミツオの前に飛び出してそう詰問したが、この時点ではまだ自分の手でミツオを殺すところまで決断できていなかったらしい。普通の人間は銃やナイフを使うこと自体が恐いから、自分の手で人を殺すことに躊躇するのは当然だが、トモキはあれほど明確に自分の決意を公表していたのではないの?そう考えると、第6章にみるトモキの尾行のあり方に私は少しイライラ。もっとも、復讐の決意を打ち明けられたサトは大喜びで、サトは今や完全にトモキの復讐劇の「履行補助者」になりきっていたが……。



© 2010 ヘヴンズ プロジェクト

2010年12月4日から第七芸術劇場、順次京都シネマ、神戸アートビレッジセンターにて公開

第7章に見る「復讐劇」は、少しまどろっこしい？

第1章から9年後の夏を描く第7章『空にいちばん近い町1 復讐』は、第2章に登場した東北の鉱山跡の廃墟が舞台。それは、ここが恭子の故郷だったため。つまり、恭子の行く先が短いとみたミツオは施設から恭子を連れ出し、恭子に故郷の風景を見せようとしたわけだ。第4章ではサトがカイジマの息子・ハルキ（栗原堅一）から借りた自転車が小道具として大きな役割を果たしていたが、第7章では舞台が東北に移ったため、はじめて車とバイクが登場する。もちろん、ハリウッド映画のようなカーチェイスがあるわけではないが、そこで描かれるバイクを使ってトモキがミツオを追い詰めていく姿は、少しまどろっこしい。ミツオを殺す決意を固めたのなら、なぜもっとスナリと実行できないの？ そう思って、少しイライラしてくるわけだ。

他方、ミツオとトモキの追っかけっこ（？）とは別に、サトが「なぜ、あんな男と一緒に暮らしているのか？」と恭子を「尋問」するシーンが登場するが、私に言わせればこれは完全なお門違い。それぞれの人生、それぞれの家庭の事情があるのは当然だから、いくらトモキのファンで、今は復讐の「履行補助者」になっているとしても、サトによる恭子に対する攻撃はやりすぎというものだ。そんな中、恭子が死亡。さあ、その責任は？そして、ミツオとトモキの追っかけっこの結末は？

ハルキ役の栗原堅一にも注目！

第1章から8年後の夏である第4章、8年後の冬である第6章、そして10年後である

第8章で少し大人になったハルキを演ずるのは、幼いハルキを演じた栗原駿士の実の兄・栗原堅一。少年の成長は早いことを実感させてくれるのは、第4章でも第6章でも典型的な悪ガキだったハルキが、第8章ではやけにハンサムでしっかりした大人(?)に成長していることだ。

サトとハルキとの接点は、第4章の自転車を借りるシーンで少し描かれるだけ。しかし、ハルキがこれだけいい男に成長すれば、ひょっとして将来的にはサトとハルキとの間に愛が芽生えるかも?そんな、ハルキ役の栗原堅一にも注目したい。

一方が死があれば、他方で生も・・・

日本国は今少子高齢化の道をまっしぐらに進んでいるが、これは単純に生まれる人間の方が死んでいく人間より少ないため。それを本作で考えると、死んでいくのは誰と誰?そして生まれてくるのは誰?

一方で死があれば、他方で生があるのは当然だが、第1章から10年後の第8章『空にいちばん近い町2 復讐の復讐は何?』では、第6章に登場した妊婦のカナを通じて新しい命の誕生が描かれる。とはいっても、ストーリーを見る限り、カナの行動はかなりハチャメチャだ。だって、そもそもカナが今カイジマの部屋までやって来たのは、バツリ止まってしまったカイジマからのお金の支払いを催促するためなのだから。そんなカナを迎えたのは、カイジマが殺されてしまったため、たった1人残された息子のハルキ。警察が調べても金は全然出てこなかったのだから、いくらカナが家捜ししても金が見つからないのは当然。ところが、偶然入ったトイレの中でカナが発見したのは、何とカイジマが使っていた拳銃。さあ、これを警察に届け出ず、銃刀法違反の現行犯になるかもしれない危険を背負ったカナは、これをどう使うの?

死闘の行方は?サトの今後は?

「復讐の復讐」とはかなりわかりにくい表現だが、第8章ではカナが持つことになった拳銃が小道具として大きな意味を持つことになるから、それに注目!第7章では引き分けとなった(?)ミツオとトモキの「追っかけっこ」は、第8章ではミツオとトモキの死闘として展開される。そして、その直前にはケータイ電話を使ってトモキからミツオへのある抗議(?)と攻撃(?)も・・・。4時間38分の大作の実質的な最終章はこの第8章。つまり、ミツオとトモキの死闘の中で訪れる悲劇と、それに対比されるカナによる新しい命の誕生だから、そのコントラストをしっかりと。

他方、これまで自分が生きていることの支えだった「復讐」がこんな形で終わった今、サトの次なる目標は?それは第1～8章までの現実の世界とは全く異質な「ヘヴンズ ストーリー」として展開される第9章で、しっかり確認したい。

2010(平成22)年10月6日記